

地域と連携した立佞武多の製作・運行

青森県立五所川原工業高等学校

機械科：小山内徹・佐藤良太・乗田慎治／電子機械科：太田浩之

電気科：長尾有晃／電子科：岩谷 佳

情報技術科：會津洋旭・齊藤邦子・三上由里子・帯川永子・原田千彰
生徒会役員

指導者：對馬省三・塩谷隆夫・亀島央・菊池一美・高松彰

1. はじめに

本校は、約5万人の中堅都市である五所川原市（津軽平野のほぼ中央）に位置し、昨年、創立40周年を迎え、その記念事業の一環として全国的に有名になりつつある立佞武多を製作・運行した。

また、今年度も工業高校の特色を織り込んだ“ねぶた”を製作し、生徒・保護者・後援会・同窓会・教職員が一体となって運行に参加し、地域に根ざした学校を県内外の観光客にアピールした。その製作過程の取り組みについて、以下に述べる。

2. 立佞武多の製作

(1) 歴史

明治から大正にかけて台頭した旦那衆がその力を誇示するため、高さ20mを超える大ねぶたを作り、競い合いながら町内を練り歩いた。その勇姿は近隣町村からも望むことができたという。

しかし、電気（電線）の普及により、いつしか途絶えて消えた。それが再び勇姿を現したのは約90年後、ねぶたの台座設計図が市内で発見され、有志の手で「立佞武多復元の会」が結成された平成8年のことだった。現在、運行コース約1.6kmである。電線は地下に埋設されている。青森ねぶた・弘前ねぶたと

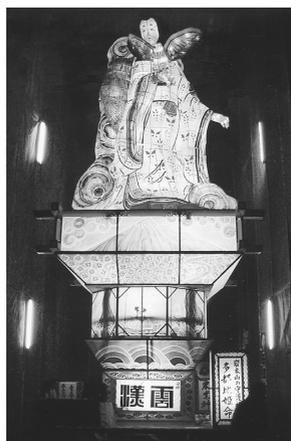
並び称されるまでになった。

(2) 計画

ねぶた製作の目的の一つは、市が中心街の活性化の起爆剤として位置付けている立佞武多の製作・運行について、地域にある学校としてその一翼を担うことであり、もう一つは、工業の特色である技術を地域住民にアピールするとともに生徒の愛校心を育み、地域貢献を深める機会とすることである。

そこで、昨年、全校生徒にねぶたの絵柄の募集をしたところ、津軽富士と称される岩木山の守護神で「安寿と厨子王」の安寿姫すなわち「多都比姫命」の応募があった(写真1)。

これは偶然にも、前年度に県教育委員会主催の「高校生によるあおもり学」で、生徒会が主体的に調査した「立佞武多のルーツ調査」と関連をもつ結果



写1 多都比姫命

となった。

それは、青森市の“座りねぶた”より歴史が古く、日本海を北前船が運んできた疫病等の厄払い、文化の伝搬、そして地域富豪の財力を高さで象徴しようとして製作されていたという。このことから、ねぶた本体は安寿姫、台座の高欄の絵柄は岩木山、回転灯籠部分には岩木川と日本海を往来する安東船をデザインした。

また、今年度は昨年度の反省を生かして組織を明確にし、生徒・PTA・後援会・同窓会等が全て関わるようにした。

① 校内分掌の担当内容

- 1) 総務・企画・交渉…校長、教頭
- 2) 立佞武多製作全般…特活指導部
- 3) 鉦製作・回転灯籠…機械科、電子機械科
- 4) 電気配線・指導…電気科
- 5) 太鼓台車・装飾…電子科
- 6) 電光掲示板配線…情報技術科
- 7) 踊り指導…体育科
- 8) 囃子指導計画…保健部
- 9) 生徒立佞武多運行…生徒指導部、担任等
- 10) 製作・運行時の記録…情報システム部
- 11) 会計全般…事務部、渉外部
- 12) 放送・表示・掲示…図書部

② 地域の指導関係者

- 1) ねぶた本体製作指導…PTA・本校OB
- 2) 台座組立解体…PTA役員
- 3) 高欄組立解体…本校OB
- 4) 囃子隊全般指導…町内会住民
- 5) 運行許可届け出等…PTAおやじの会
- 6) 電気配線工事…PTA役員

以上の組織をフルに活用し、今年度はスタートした。今回の絵柄は、2年女子がデザインした「素戔鳴尊」を採用した。これは、ほとんどの凶神を封じ込める力のある吉神であり、言い換えると、現在の不況を全て封じ込め、明るい社会に転じてくれる意味があり、



写2 素戔鳴尊

まさしくこの時代にマッチした題材であった(写真2)。

(3) 活動状況

① 立佞武多製作所

ねぶたの本体部分は、高さが約6m、3パーツに分割して製作することにしたが、教室では製作不可能のため、製作小屋が必要となった。その先導役をつとめたのが「おやじの会」で、この会には土建業や鉄骨業者がいて、あっという間に製作小屋を作ってしまった。

② 台車と台座製作

基本的設計ならびに組立作業は、機械科が担当することになっていたが、高欄部分を入れると高さが約11mに達するため、転倒等の事故も考え、機械科OBが活躍している鉄工所に依頼することにした(図1設計図)。

③ 手振り鉦製作

手振り鉦は、市販のものは1組約2万円相当するため、機械科で手作りすることにした。鉦の金型は旋盤で製作し、油圧ベンダーに金

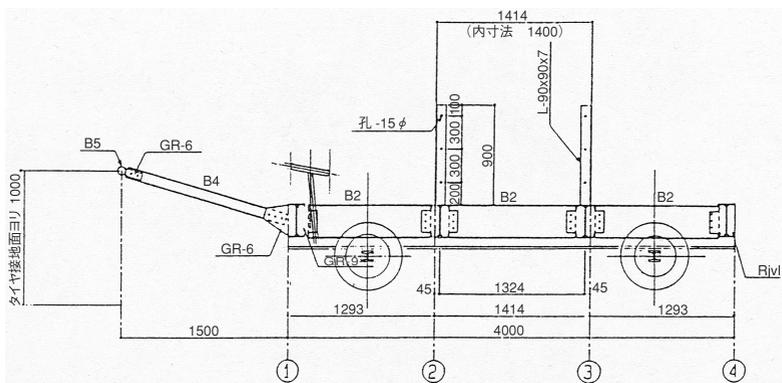


図1 設計図 - 台車と台座

型を取り付け、改造した油圧プレスにより生産したものである(写真3)。



写3 手振り鉦

なお、材料は、昨年度は鉄板を使用した
が、音色が鈍いため、今年度は真鍮を使用し、厚さ1mm、直径140mmの鉦を製作した。これは、本物により近い音であり、原価も市販の1/10位ですんだ。この鉦は、他校にも貸与し、大いに喜ばれた。

④ 回転灯籠・電光掲示板

工業高校らしい特徴を取り入れたねぶたを製作するため、高欄の中央部に、昨年度は八面、今年度は12面の回転灯籠を取り付けた(写真4)。この可動部は、電子機械科が担当した。

また、その下部に学校をアピールするため電光掲示板を設置した(写真5)。この製作は、情報技術科が担当した。このいずれも、運行に際し観光客に対して大きなインパクト



写4 回転灯籠



写5 電光掲示板

を与えたことは言うまでもない。

⑤ 高欄部製作

人形部分を支える高欄部分の絵柄も、大きなねぶたを構成する要素の一つである。この部分がありにも貧弱な場合は、ねぶた全体が死んでしまうため、昨年度は、市内在住の専門家に指導をお願いした。その中で、絵の



写6 天照大御神



写7 リズミカルな腹打ち

具の溶き方や配色，筆の種類や運び方，ロウ付け等を学び，素晴らしいものができあがった。特に，ねぶたの背面部を司る送り絵（前年度：唐女剣師，今年度：天照大御神）は見事であった（写真6）。なお，今年度は指導者から多少のアドバイスを受けたが，全て生徒が製作したものである。

⑥ 囃子練習隊

囃子（笛・太鼓・鉦）については，ねぶたを運行するにあたっての要であるため，その指導計画に当初は苦慮したが，保護者からの推薦で，元五所川原市囃子保存会のメンバーに指導を仰ぐことができた。その献身的な指導には，頭が下がる思いであった。

その結果，運行時の囃子は非常にリズムカルなものになり，観光客を喜ばせていた（写真7）。なお，生徒たちには，指導者が奏でた囃子をVTRとCDに記録し家庭でも練習できるようにした。これを担当したのが電子科である。

⑦ 人形部分の製作

ねぶた製作の経験者が生

徒・職員の中にはほとんどいなかったため，その指導は，市観光課職員（実際の大型立佞武多の製作者）の派遣をお願いし対応した。これは偶然であるが，その中の代表が本校の保護者であり，サブがOBであった。その関係からスムーズに事は運んだ。

しかし，骨組みに当たっては，平面図から立体的な構造を要求されるため，な

かなかイメージがつかめず悪戦苦闘した。

この製作者が，どれをとっても口では言い表せないほどの苦労と努力を必要とした。これを担当したのが特活指導部であり，ねぶた完成の一番の立役者である。

なお，その大きさは，幅5メートル，長さ5.5メートル，高さ11メートル，重さ約4トンの規模になった。

3. 運行

祭り期間6日間のうち，本校は2日間の出陣にした。そのうちの1日は生徒が主体とな



写8 校長を先頭に運行



写9 生徒たちによるハヤシ

り、もう1日はPTA・後援会・同窓会が主体となり運行することにした。

なお、その運行は生徒指導部、渉外部が担当し、食事の手配・法被配布・ねぶたへの配置・集合解散等を計画した。

この結果、2日間ともに素晴らしい運行が行われ、栈敷席からは「さすが工業高校生らしいねぶた」と掛け声がかかるほどであった(写真8, 9)。

4. 成果と課題

2年間に亘って工業高校の特色を織り込んだ立佞武多を製作し、県内外に、その名と技術や意気込みをアピールできたことは大きな

収穫であり、この経験が工業高校の新しい時代の幕開けを予感させるものであった。また、生徒の“ものづくり”に対する興味・関心が、ますます高まったことは間違いない。

ただし、継続して参加するには予算措置を講ずる必要があり、それ以上に、製作指導者体制が確立していないと、運行を含めて出陣はできないものと思われる。

5. まとめ

ねぶたの製作・運行に当たっては、生徒・教職員の努力もさることながら、PTA・後援会・同窓会・おやじの会・地域関係者の並々なぬ協力があったからこそその完成である。まさしく、学校が一体化し、地域を巻きこんでの活動である。

このように、地域と連携した取り組みは、今後ますます必要性を増すものと思われ、積極的に学校が関わり合いを持つことが、使命であり課題でもある。

最後に、県教育委員会から「創意あふれる学校づくり推進事業」として、2年に亘って支援をいただいたことに対し感謝申し上げます。

続 資料日本工業教育史

小林一也/浅岡廣一/岩本宗治/佐藤義雄/松林巧/三浦基弘/山下省蔵

国際化・情報科・少子高齢化などが教育の現場に大きな変化をもたらした平成期以降の工業教育をまとめ、さらに今後の展望も収録

A5判400ページ 定価4200円 **2003年11月新刊発行**